

学習発表会で育つ子供たち

11月11日(土)、学習発表会が開催されました。

1年生は、初めての学習発表会です。国語科の物語教材「くじらぐも」を劇にして元気よく発表していました。2年生も国語科の物語教材「お手紙」を演じながら、体育や音楽、図画工作等、日頃の学習の成果を生き生きと発表しました。3年生は、総合的な学習の時間や社会科の時間で出会った人・もの・店・施設等を、身体表現豊かに発表しました。4年生は、4年ぶりに行われた「あく手のつどい(お年寄りとの交流会)」



【ホタルイカを模して踊る3年生】

会)」、身近な問題になっている「地球温暖化防止の取組」、「自分の得意とする技」の3つのテーマでグループに分かれ、個性豊かに発表しました。5年生は、10月に行った寺家っこまつり2023での工夫や失敗等のエピソードについて、クイズを交えながら楽しく発表しました。6年生は、社会科の歴史学習を通して日本を変えた大きな出来事を取り上げて、歴史に興味・関心をもてるような劇をつくって発表しました。

特に、6年生は小学校生活最後の学習発表会でした。今回の学習発表会を通して子供たちが気付いたこと、学んだことについて振り返りの作文からたどってみたいと思います。

本番では、今までで一番よいえんぎができました。特に、前からなかった「前前前世」のダンスもうまくおどれたのでよかったです。前に出てしゃべったり、振付をつけてえんぎをしたりすることができました。そして、大きい声も出せました。自分の目標であったことも達成できたのでよかったです。全体の計画からせりふ決め、振り付け、小道具作成、BGM 選曲も自分たちでやって、不安でした。けれどここまで自分たちでできてすごいなと思いました。エンディングにあったとおり、他学年との交流を深め、明るい学校をつくっていきたいです。あと5か月がんばりたいです。

(6年1組 Hさん)

私たちは、この学習発表会で目指していたことがあります。それは、大枠やせりふを先生が提示したとしても、「子供たちが自分たちで考え、工夫し、学習発表会が終わったらやり切ったという充実感を得られるようにする」ということでした。これは、校訓である「自啓の心」に通じるものでもあると考えます。こうしたことを踏まえて、子供たちが考えた学習発表会のスローガンは「主役はみんな～一人一人が一所懸命に最高の演技をしよう～」というものでした。今回の発表には脇役はいません。たとえせりふが短くても、出番が少なくても、そこに至るまでに自分で考え、工夫したことがあれば「主役」です。

その一方で、「主役」という言葉には、重い響きもあります。Hさんが自分たちで決めた計画やせりふ等、本当にうまくいくのだろうか、これでいいのだろうかと不安を抱くのは当然のことです。また、急な変更もあって対応するのも大変だったと思います。でも、仲間と知恵を寄せ合い、意見を交わし合って乗り越えることができました。自分だけでなく“自分たち”がすごいと感じることができたHさん。きっと学級みんなのつながりも深まったのではないかと思います。さらに、歴史上の出来事を劇にしていますが、今、まさに6年生は寺家小学校の歴史を刻んでいるところです。6年生の発案で他学年との合同朝の会を開催したり、縦割り班による清掃活動でリーダーシップを発揮したりしています。残り5か月、6年生が「自啓の心」をもって、自治の校風を築き上げていくことを期待しています。

(校長 広田 積芳)